

陸軍病院條例

醫官會計書記看病人看病卒旅費並滯留日當

右六人以上之患者ニ附添ノ氏ハ行軍日當ヲ支給

シ五人以下ハ旅中滯留共隊外日當ヲ支給ス可シ

雇看病卒旅費

右六人以上之患者ニ附添ノ氏ハ行軍日當ヲ給シ

五人以下ハ日當金五拾五錢ヲ支給ス可シ

但滯留中日當ハ看病卒ニ同シ

明治八年十月廿八日施行

八年十月廿八日申

陸軍病院條例

八年十月二十七日  
陸軍省  
以陸軍全部  
ハ達ス

陸軍病院條例別冊之通相定候條此旨相達候  
事

但從前之規則別冊ト矛盾スルモノハ屬廢  
止候事

明治八年十月十七日

陸軍卿山縣有朋

陸軍病院條例

第一條 凡ソ東京ニ於テ陸軍本病院ヲ置キ各鎮臺ニ於テ鎮臺病院ヲ置キ又各所屯營毎ニ屯營病室ヲ置ク

但東京鎮臺諸隊ノ病者ハ本病院ノ掌トル所ナルヲ以テ別ニ鎮臺病院ヲ置カス近衛及校團等皆之ニ同シ

第二條 凡各病院ニハ第一課第二課ノ醫官第三課ノ藥劑官及ヒ會計官ヲ置ク

第三條 本病院第一課長ハ一等軍醫正若シクハ二等軍醫正一名之ニ任シ軍醫以下若干名之ニ屬ス

第一課内分ツテ二トス一ハ本廳ニ出仕ス之ヲ第一課當直ト云ヒ一ハ院内病室ニ出仕ス之ヲ第一課副直ト云フ第二課長ハ隊附二等軍醫正ノ内一名之ヲ兼務シ隊付軍醫以下之ニ屬ス之ヲ第二課當直ト云フ第三課長ハ藥劑監若クハ藥劑正之ニ任シ劑官以下之ニ屬ス第三課中又分テ二トス一ハ藥劑掛一ツハ器械掛ト云フ其會計官ハ司契課及ヒ被服陣營課糧食薪炭課軍吏之ニ任ス

第四條 其鎮臺病院ニ在テハ第一課長ハ軍醫一名之ニ任シ軍醫副以下之ニ屬シ第二課長ハ隊附二等軍醫正若シクハ軍醫ノ内一名之ニ任ス第三課長ハ劑官之ニ任ス各課内當直副直及藥劑掛器械

掛ノ名稱ヲ設置スルコト本病院ニ異ナルコトナシ其會計官ハ病院課軍吏之ニ任ス

第五條 第一課當直ハ院内病者ノ治療及ヒ廳中ノ庶務ニ任シ且放衙ヨリ開衙迄一名宛本廳ニ宿直シ病院ノ印章及ヒ記録等ヲ預カリ臨時ノ事務ハ規則ニ照シテ之ヲ辨理スヘシ副直ハ各病室毎ニ一名宛輪直シ看病人看病卒ノ勤惰ヲ監視シ室内ノ事務ヲ辨理シ入室病者ヲシテ攝生治療ノ規則ヲ遵守セシムルヲ責任トス

第六條 第二課モ亦輪番ヲ以テ若干名宛病院ニ宿直シ諸隊其他陸軍各部ニ急劇ノ病者アリテ來診ヲ請フ時ハ直ニ往テ之ヲ診療ス若シ來診ヲ請フ

者多ク第二課ノ當直醫官派出シ盡シテ尚請フ者  
アレハ第一課ノ副直醫官ヲシテ之ニ應セシムヘ  
シ

第七條 凡各隊ノ醫官退出ノ後下士兵卒發病シ來  
リテ診ヲ乞フ者アラハ第二課當直之ヲ診視シテ  
二種ニ分ツ甲ハ重症ニシテ直ナニ入院セシム可  
キ者乙ハ輕症ニシテ藥劑ヲ與ヘ或ハ之ヲ與フル  
ヲナク休業若クハ服務ヲ命シ歸隊セシムル者ナ  
リ共ニ其病名等差休業服務等ヲ記シテ附添ノ者  
ニ附シ該隊週番所並ニ醫官ニ報告セシム

第八條 凡病院内ニ在ル病室ヲ院内病室ト名ケ以  
テ屯營病室ト區別ス院長ハ入院病兵ノ治療ヲ主

宰シ當直並副直醫官之ヲ輔ク

第九條 院長ハ治療ヲ主宰スト雖ヒ該院一般ノ事  
務ニ涉ルヲ以テ病室内ノ事務ハ概チ當直並副直  
醫官ヲシテ之ヲ擔當セシム故ニ病室内ノ事務規  
則ニ乖戾スル所アレハ當直並副直醫官其責ニ任  
スヘシ

第十條 院長廻診スル時ハ當直副直之ニ隨ヒ前日  
來ノ病狀ヲ縷述シテ診察ヲ受シメ且院長ヨリ命  
スル所ノ方法ヲ處方箋及ヒ入室病兵録ニ記注シ  
廻診后之ヲ施與スヘシ其命ヲ受タル者退出后施  
用スヘキ方法アルキハ詳カニ交代ノ醫官ニ委託  
スヘシ

第十一條 院長廻診セサルキハ當直代診シ輕症ニシテ異狀ナキ者ハ前方ヲ與ヘ重症及ヒ異狀アル者ハ適應ノ方法ヲ處スヘシ

第十二條 凡各室ノ副直醫官ハ上官廻診前一回午後一回夜一回必ス病室ヲ巡視シテ病者ヲ診シ病狀ノ眞詐ヲ監察シ偶發ノ症アルキハ之ヲ處方箋及ヒ入室病兵治驗録ニ詳記スヘシ且病室ハ總テ清潔ヲ貴フヲ以テ浴室廁圍病室周圍ノ庭園ニ至マテ仔細ニ之ヲ檢視シ若シ不潔ナルキハ看病人ヲ督責シ看病卒ヲシテ洒掃拂拭セシム可シ

第十三條 病者俄カニ重症ニ進ミ或ハ危篤ニ陥ル者アルキハ該室ノ副直醫官速ニ通報録ニ記シテ

第一課當直ニ報シ其診察ヲ受ケシメ或ハ院長若クハ副長ノ來診ヲ請フヘシ

第十四條 凡ソ各隊ヨリ病兵ヲ病院ニ送り來ルニ急劇ノ症ハ時間ヲ限ラスト雖モ尋常病者ハ前日該隊醫官ヨリ其病名ト人員トヲ報知シ本日其病源經過及ヒ從來治療スル所ヲ第一處方箋ニ詳記シ該隊醫官調印シ病者ニ附シテ午前護送シ來ルヲ法トス

第十五條 入院病者ノ來ルヤ第一處方箋ニ病症相當ノ室號ヲ記注シ該室ニ入ラシム但入院病兵名簿ニ其隊號等級姓名年齡病名等差入院月日室號ヲ書寫シ擔當ノ醫官之ニ檢印

スヘシ

第十六條 入院病者ノ病室ニ來ルヤ當直若クハ副直醫官該隊ヨリ附送スル所ノ第一處方箋ニ記載セル隊號等級姓名年齡原因經過現症病名等差處方等ヲ一々點檢シ尙ホ病者ヲ診察シテ之ヲ入室病兵錄ニ詳記シ病衣ヲ與ヘ臥床ニ就カシメ通報錄ヲ以テ之ヲ會計官ニ報ス又左ノ數品ハ院中ニ留メ其餘ハ悉ク病者護送ノ者ニ託シテ該隊ニ廻送セシム今院中ニ留ムル者ヲ甲乙二類ニ分ツ左ノ如シ

甲類

帽、劍、衣、袴、襦衣、靴、靴下、

右看病人ニ附託シ其類ヲ別簿ニ記載シ姓名番號ヲ記セル小票ヲ附シテ室中ノ小庫ニ藏メシム

乙類

手牒手帕紙鉛筆磨齒粉楊枝櫛書籍類郵便切手等右當直若クハ副直ノ意見ヲ以テ其妨ケナシトスル者ハ病者ニ附シテ病室ニ入レシム第十七條 各病室ニハ副直醫官ノ下ニ看病人ヲ置キ室内ヲ監視セシメ看病卒ヲシテ病者ヲ看護セシム

但看病人ハ看病卒ノ率先トナリ重病ノ者ヲ看護ス可シ

第十八條 病者規則ヲ犯ス時ハ看病人之ヲ説諭シ  
而シテ事重キニ係ル者ハ其事情ヲ筆記シ副直醫  
官ニ報ス可シ

第十九條 看病人ハ朝夕一回ツ、病室内及ヒ則圖  
ニ至ルマテ看病卒ヲシテ掃除セシメ一週ニ一回  
ツ、全室ヲ清拭セシム特ニ暖爐ヲ設クル時間ハ  
最モ注意ス可シ

第二十條 凡病室ニ入り治療ヲ受ル者ハ病室ノ規  
則ヲ守ル可シ之ヲ犯ス者ハ罰アリ其規則左ノ如  
シ

攝生服藥食品飲料毫モ醫官ノ命ニ違フ可カラ  
ス

朝起盥嗽喫飯浴湯凡テ揭示ノ時限ニ違フ可カ  
ラス

醫官回診ノ時ハ病床ニ坐シテ相當ノ禮ヲナス  
可シ

但病症ニ因テ坐スルヲ能ハサルモノハ此限  
ニアラス

醫官回診ノ時ハ前診察後ノ患狀ヲ詳細申告ス  
可シ

當直及副直醫官ハ病疾ノ諸事ヲ理スル者ナル  
カ故ニ病兵ハ決シテ其命ニ違フ可カラズ

入室中ハ第十六條ニ載ル乙類ノ外一切私有ノ  
物品ヲ病床ニ携フルヲ許サズ且私ノ嗜ム所

ヲ以テ醫官ノ許可ナキ品ヲ飲食スルヲ許サス  
入室中喫烟高聲吟歌集會雜話及ヒ勝敗ニ關ス  
ル遊戲ヲナスコトヲ禁ス若シ病ニ因テ喫烟ヲ許  
ス者ハ之ヲ其處方箋ニ記注スル者トス  
室内逍遙ヲ命セハ病室ノ椽側ヲ逍遙シ室外逍  
遙ヲ命セハ室外ノ閑地ヲ逍遙スヘシ内外共ニ  
定時限ヲ超ユ可ラス  
但シ墻塼ヲ攀チ花木ヲ折ル等一切嚴禁タリ  
看病人看病卒ハ醫官ニ屬シ病室内外ヲ監視シ  
病者ノ看護ヲ司トル者ニシテ病兵ノ使役ニ供  
スル者ニアラサレハ病兵之ヲ使役ス可カラサ  
ルハ勿論互ニ禮節ヲ竭スヘシ

第二十一條 病兵規則ヲ犯ス者アラハ當直若クハ  
副直醫官一々之ヲ牒簿ニ錄シ置キ全快退院ノキ  
其犯狀ヲ該隊ニ報知ス可シ

第二十二條 凡病者ノ食物ハ會計官之ヲ監視シテ  
各室ニ分配セシムト雖モ當直若クハ副直醫官更  
ニ之ヲ點檢シ品物ノ新陳製法ノ精粗分量ノ多少  
等ニ注意ス可シ又病ニ由テ常食ニ堪ヘサル者ア  
ラハ醫官ノ監定ヲ以テ別物ヲ與フルコトアルヘシ  
衣服寢衣モ亦然リトス

第二十三條 凡診察及ヒ喫飯ノ前后二十分時間ハ  
必ス看病卒ニ命シテ隔戸ヲ開カセ大氣ヲ流通セ  
シム可シ然レモ注意シテ賊風ニ觸レシム可ラス

第二十四條 醫官及ヒ看病人ハ常ニ病者ノ被服器  
什等ノ清汚ニ注目シ苟クモ攝生ニ害アル者ハ之  
ヲ除キ或ハ之ヲ交換セシムヘシ殊ニ傳染病ニ於  
テハ其性ノ善惡ニ隨ヒ消毒法ヲ行ヒ或ハ焼却ス  
ヘシ

第二十五條 病者ノ浴湯ハ三四人ヲ以テ一團トナ  
シ一團浴シ終ルキハ又次ノ一團ニ及ヒ次序ヲ逐  
テカハルカハル浴シ混雜ナカラシムヘシ但シ不  
潔病者ハ最後ニ浴セシムルヲ法トス

第二十六條 凡ソ病者ノ室外散歩ハ日ノ長短ニ隨  
ヒ預シメ院長ニ於テ時間ヲ定メ許可ノ小票ヲ帶  
ハシメ院内ノ閑地ヲ逍遙セシム但寒風暑熱等攝

生ニ害アルキハ必ス之ヲ禁ス可シ

第二十七條 凡ソ病者ノ朝起喫飯服藥入浴散歩入  
寢等日ノ長短ニ隨ヒ其時々院長ニ於テ時間ヲ定  
メ之ヲ室内ニ揭示スヘシ

第二十八條 病者ノ喫飯入浴散歩ノ時ハ毎ニ看病  
卒ヲ附シテ監視セシム可シ

第二十九條 各病院病室ノ暖爐ハ氣候ノ寒暖ニ隨  
ヒ時間ノ長短ヲ計リ温度ノ高低ヲ算シ廢置ノ時  
日ヲ定メ看病卒ヲシテ之ヲ監セシム

第三十條 凡ソ入院病兵ニ面接セントスル陸海軍  
下士兵卒並ニ生徒ハ其隊週番所或ハ其校舎ノ調  
印アル添書ヲ帶ヒ其他ハ先ツ病兵ノ該隊或ハ校

陸軍病院條例

舍ニ請フテ其調印アル添書ヲ得午後第一時ヨリ  
第四時ニ至ルノ間病院ニ至リ更ニ當直醫官ノ許  
可ヲ得テ病兵ニ面接ス可シ

但シ危篤病兵ノ親近ハ此限ニアラス

第三十一條 病者ニ面接ヲ乞フ者ハ許可ノ印證ヲ  
檢シ合式ノ者ハ室内應接所ニ於テ面接セシム而  
シテ重病者及ヒ起臥自在ナラサル者ハ病床ニ至  
リ面接スルヲ許ス面接ノ時ハ看病卒ヲ附シ監視  
セシムヘシ又己ニ危篤ヲ報知セル病者ハ其印證  
ノ有無ニ關セス速ニ面接セシム可シ

第三十二條 病者所用ノ物品ノ内該隊ヨリ支給ス  
ル紙、筆、磨齒粉、等缺ルキハ看病人其品目ヲ牒簿ニ

記載シ當直若クハ副直醫官ノ檢印ヲ得テ會計官  
ニ申告ス其會計官ハ該隊會計官へ通報ノ後其物  
品ヲ受領シ看病人へ渡シ看病人ハ其品數ヲ牒簿  
ニ照シ醫官ノ點檢ヲ受ケ而ル後病者ニ與フヘシ

第三十三條 入院病兵ノ疾病轉變シテ等差異ナル  
キハ之ヲ該隊醫官ニ報スヘシ

第三十四條 病癒レハ送狀ヲ附シテ歸隊セシム歸  
隊セシムルモ猶些少ノ治療ヲ要スル者ハ其旨趣  
ヲ送狀ニ記載シ該隊醫官ニ報告ス可シ

第三十五條 凡病者快癒シテ院長ヨリ退院ヲ命ス  
ルキハ當直若クハ副直醫官其處方箋ニ何日退院  
ト書シ之ニ調印シ看病人ヲシテ第一課ニ送報セ

陸軍病院條例

シメ已ニ退院スルキハ通報録ニ録シテ又第一課  
及ヒ會計官ニ報告セシム

但退院ノキハ懇ニ後來ノ攝生法ヲ示授スヘシ

第三十六條 凡病ニ因テ兵役ニ堪ヘサル者ハ該隊

醫官ト謀リ仔細ニ診定シ診斷書ヲ作り該隊長ニ

送附スヘシ

第三十七條 入院病兵危篤ノ症アラハ豫メ之ヲ該

隊ニ報知シ戰友親信ニ訣別セシメ且言フ所アレ

ハ遺言セシメ戰友親信ノ看護ヲ願フ者アラハ該

隊ノ添書ヲ証トメ之ヲ許ス

第三十八條 凡下士兵卒除隊ノ時重病ニテ駕送ナ

リ難キ者ハ診斷書ヲ以テ元所管ノ長官ニ申告シ

病院中ニ置テ治療ヲ加ヘ快癒スレハ送狀ヲ附シ

テ元ノ所管ニ送り若シ死亡アルキハ之ヲ會計官

ニ報シ會計官ヨリ埋葬ノ儀ヲ看病人ニ命シテ取

扱ハシメ本人所有ノ物品ハ目錄ヲ製シ死亡診斷

書等ヲ添テ元ノ所管ヘ送達スヘシ

第三十九條 凡病兵死亡スルキハ死亡診斷書ヲ以

テ該隊ニ報シ同隊ヨリ受取ノ者來ルヲ待テ之ヲ

付ス可シ

第四十條 百方治術ヲ盡スモ其効ナク終ニ死スル

者アラハ通報録ニ録シテ第一課及ヒ會計官ニ報

シ看病人ニ命シテ速ニ之ヲ屍室ニ移シ臥床ニ臥

セシメ白布ヲ以テ屍ヲ覆ヒ懇切ニ取扱ヒ隊號等

級姓名ト瞑目セシ年月日時ヲ記シテ臥床ニ貼シ  
 看病卒ヲ附シテ之ヲ護ラレバ死體受取人來ルキ  
 ハ看病人ヲシテ之レニ面會シ屍體ヲ引渡サシメ  
 后ト看病卒ヲシテ屍室ヲ洒掃セシメ又成規ニ由  
 テ不潔品等ノ處置ヲナス可シ

第四十一條 各室擔當ノ醫官ハ日常注意シテ其看  
 病人看病卒ノ言行動情ヲ監シ若シ病ニ罹ルキハ  
 之ヲ診視シテ病者ヨリ傳染セルヤ否ヤノ確據明  
 證ヲ取り果シテ傳染セル者ハ其事ヲ院長ニ具狀  
 シ其許可ヲ得テ擔當ノ醫官其處方箋ニ檢印シ藥  
 劑ヲ給與シ厚ク加養セシム若シ死ニ至ラハ其詳  
 悉ヲ記シ調印シテ院長ニ出ス可シ

陸軍病院條例  
 第四十條  
 第四十一條  
 第四十二條  
 第四十三條  
 第四十四條  
 第四十五條

第四十二條 凡病兵ヲ病院外ニ於テ治療スルハ第  
 一非常ノ時故アリテ院内ニ病者充滿スル時第二  
 營繕修理等ニテ一時閉院スル時第三院長ノ診斷  
 或ハ病症ニ因テ病室内ニ置ク可ラサル者ニ限ル

第四十三條 病院失火或ハ天災ニテ家屋傾倒スル  
 ノ患アル時ハ看病人看病卒ヲシテ病者ヲ保護セ  
 シメ醫官會計官之ヲ監視シテ災害ヲ避ケシム

第四十四條 各隊下士兵卒ノ未痘並ニ天痘不分明  
 ナル者ト種痘シテ五年以上ヲ經ルモノトヲ調査  
 シ病院ニ於テ必ス種痘セシムヘシ

第四十五條 陸軍諸生徒兵丁ノ體格ヲ檢査スルコ  
 アラハ撰兵規則ニ依リ其取捨ヲ判決ス可シ

陸軍病院條例  
 十一  
 陸軍省

陸軍省  
軍醫部  
令  
第一〇四號  
昭和十一年  
三月二十一日

第四十六條 鎮臺病院ニ於テ一時事故アリテ醫官ノ増員ヲ要スル時ハ醫士ヲ備ヒ或ハ看病卒ヲ備ヒ調藥生及ヒ小使等ヲ命スルハ皆院長會計官合議ノ上司令將官ノ許可ヲ得ヘシ

第四十七條 各病院ニ於テハ病兵藥品器械月表ヲ製シ翌月十五日ヲ限リ軍醫總監ニ出シ且一月一日ヨリ六月三十一日マテヲ上半年トシ七月一日ヨリ十二月三十一日マテヲ下半年トシ半年表ヲ製シ上半年表ハ七月三十日限リ下半年表ハ一月三十日限リ軍醫總監ニ出ス可シ其書式ハ陸軍醫事雜誌第二號ニ詳ナリ

第四十八條 流行病旺盛ナル時ハ速ニ隣接セル病

院並ニ軍醫總監ニ報知スヘシ

第四十九條 凡各病院第三課ニハ藥室並ニ器械室ヲ設ケ病院並ニ屯營病室ニ於テ用ユル藥劑ヲ監定シ或ハ製煉シ藥劑庫ニハ藥劑ヲ蓄ヘ又器械庫ヲ設ケ諸治療器械ヲ貯ヘ各所ノ用ニ備フ

第五十條 各病院ノ藥室ニハ藥品原簿藥品消費簿器械出納簿處方錄等ヲ置キ諸項精密ニ記載ス可シ

第五十一條 藥室ニ於テハ複雑ノ裝置ヲナスコトナク且ツ簡易ノ器械ヲ以テ製煉シ得ヘキ製劑例スルニ丁幾、水浸、丸、散、硬、軟、二膏、舍利別、蒸餾水、等ノ如キハ平常之ヲ製造シテ其用ニ供ス可シ

陸軍病院規則

第五十二條 各鎮臺病院地方ニ於テ藥物器械ノ購求シ難キ者アルキハ本病院ヘ請求スヘシ然ル時ハ本病院會計官ヨリ之ヲ該臺司契課ヘ送與シ其代價ヲ納メシムヘシ

第五十三條 凡全國陸軍所用ノ藥品經費半年表並ニ器械半年表ハ本病院第三課ニ於テ之ヲ製シ軍醫總監ヘ出スヘシ

第五十四條 本病院ノ藥物器械經費ハ歲末ニ至テ一年ノ總表ヲ製シ軍醫總監ノ點檢ヲ受ケ更ニ來歲費用ノ日途ヲ豫定シ藥物器械ヲ購求スヘシ

第五十五條 各病院ニ於テ日々費ス所ノ藥品ハ一々其分量ヲ詳記シ日表ヲ製シ各月月表ヲ製シ每

歲六月毎ニ年表ヲ製スヘシ

第五十六條 藥品原簿ヲ置キ購求藥物ノ斤量ヲ詳記シ又其月々消費セシ所ノ數ヲ詳記シ各月原品ト消費ト差引士官等藥價ヲ取ルモノハ之ヲ區分シ表面ヲ製シ院長ヘ出シ檢印ヲ經テ會計官ヘ移スヘシ

第五十七條 藥品ノ量ハ分厘ノ差モ性命ヲ誤ルモノナレハ調劑ノ際宜シク小心注意シテ秤量ヲ正フスヘシ

第五十八條 凡藥瓶藥筐ニハ明白ニ標札ヲ貼シ且藥瓶ヲ排列スルニ每品必ス其所在ヲ定メ置キ假令暗中ト雖モ順次ヲ逐ヒ之ヲ搜索シ得テ一モ誤

陸軍病院規則

陸軍病院條例

ラサルニ至ルヲ要ス

但毒藥猛藥ハ必ス其所ヲ異ニシ且毒物ノ微號ヲ付ス可シ

第五十九條 調藥諸器ハ務メテ清潔ニシ銅製器械ハ殊ニ注意シテ清淨ナラシムヘシ

第六十條 諸製劑ハ局方ニ據テ之ヲ製煉シ謾リニ他ノ方法ニ從フ可カラズ

第六十一條 凡病室ヨリ處方箋ヲ送り來ラハ速ニ其方ヲ照シテ調劑シ藥瓶ノ紙標藥袋ノ上ニハ病室番號病者姓名服用法ヲ詳記シ外用藥ハ赤色或ハ青色ノ札ヲ貼シ以テ其外用内服ノ別ヲ表スヘシ

第六十二條 處方箋ニ書スル所ノ配伍若シ化學ノ規則ニ悖レルモノ又ハ用量非常ナルモノハ一應之ヲ其處方主ニ詰問シ誤書ナルカ又ハ別ニ定見アルカヲ質シテ後調劑スヘシ

第六十三條 製劑ハ各何月何日誰製スト詳ニ原籍ニ登録シ且分配ノ調劑モ病兵某ノ用藥ハ何官某調劑スト日々原簿ニ詳記ス可シ

第六十四條 凡藥物並ニ藥室需要ノ品ヲ購求スルニハ其名目ト員數トヲ牒簿ニ記シ主任ノ劑官若クハ副補内調印シ更ニ第三課長ノ檢印ヲ受ケテ會計官ヘ廻ス可シ

第六十五條 調藥舖アラサル所ノ地方ニ在テ士官

陸軍病院條例 十四 陸軍省

並ニ隊外軍人軍屬病ニ罹リ軍醫ノ處方箋ヲ携ヘ  
來ル時ハ藥室ヨリ其藥劑ヲ與フ可シ然シテ即時  
其藥價水藥丸藥散藥外用共一日分定則ノ代價ヲ  
納メシム但内外用數品ヲ與ルト雖モ一日分ハ合  
シテ定價ニ超ユルコトナカルヘシ

但其藥數ヲ會計官ニ報シ藥價ヲ收納スルコトハ  
會計官ノ主トル所ナリ

第六十六條 器械掛ハ醫科百般ノ器械ヲ主管シ時  
々淨拭シ鏽腐ノ虞ナカラシム且月表年表ヲ製シ  
各病院ノ現品ヲシテ一日瞭然ナラシムヘシ其内  
欠乏シテ購求スヘキモノアラハ之ヲ牒簿ニ記シ  
主任ノ劑官若クハ副補ノ内調印シ第三課長ノ檢

印ヲ受ケテ會計官ニ廻スヘシ

第六十七條 器械原簿ヲ製シ器械ノ總數ヲ錄シ損  
失並ニ配與ヲ詳録スヘシ如シ己ニ用ユルニ堪ヘ  
サル器械アラハ其名目員數ヲ錄シ會計官ニ返附  
シ受領證ヲ取り器械原簿ニ其事由ヲ錄スヘシ

第六十八條 ランドセルアンピランス等ノ豫備ヲ  
ナシ即時出兵アルモ需用ニ缺ルコトナカラシム

第六十九條 外科器械舖アラサル所ノ地方ニ在テ  
軍人軍屬病ニ罹リ軍醫之ヲ診斷シテ治療器械ヲ  
要シ本人ヨリ拜借ヲ願フ時ハ之ヲ貸渡スヘシ  
但拜借ノ器械破損スル時ハ其代價ヲ納メシム

第七十條 會計官ハ會計經理ノ事務及ヒ看病人看

病卒ヲ管轄シ藥品食料器具消耗品等買辨ノコトヲ掌ル其職務ハ在外會計大綱條例及看病人看病卒服務概則ニ詳ナルヲ以テ茲ニ掲ケス

第七十一條 毎月一回醫官劑官會計官ヲ會シテ院内諸事ノ利害得失ヲ議スヘシ

第七十二條 各鎮臺病院所用ノ藥物器械ハ病院會議ニ於テ其品位ノ良不良並ニ價格ノ廉不廉ヲ議定シ各地方ニ於テ買辨スヘシ

第七十三條 各病院ニ於テハ毎月一回各隊々附醫官ヲ會シ隊附醫務得失ヲ議スヘシ

第七十四條 各病院ニハ左ノ牒簿ヲ具ヘ萬般ノ事件ヲ詳記シ後日ノ照案ニ具フヘシ

病院日記 病兵名簿 諸表原簿  
 藥品出納簿 器械出納簿 出勤簿  
 治驗錄

第七十五條 各病室ニハ左ノ牒簿ヲ具フヘシ

病室日記 入室病兵名簿 通報錄  
 入室病兵治驗錄 受領簿 器械簿  
 月表原稿 出勤簿